

Alle können alles träumen I.

Ein Pärchen sitzt abends¹ in einem Berliner Lokal. Beide sind Touristen aus Bayern und seit einigen Tagen in Berlin.

Heidi: Berlin ist eine so große Stadt², dass wir in nur ein Paar Tagen nicht genug sehen können. Reichstag, Brandenburger Tor, Unter den Linden. Museumsinsel und Dom ... alles ist prächtig und grandios. Das ist die Hauptstadt.

Peter: Aber Prenzlauer Berg und Kreuzberg waren auch interessant. Die Currywurst schmeckte unvergleichlich gut. Berlin ist arm aber sexy.³

Heidi: Arm? Aber wir haben heute das Hotel Adlon⁴ von innen angeschaut. Das Hotel war prächtig und luxuriös, nicht wahr?



Peter: Na ja.

Heidi: Wenn wir jetzt im Hotel wären, was würden wir dann wohl essen?

Peter: Schnitzel.

Heidi: Nein. Wir wären im Hotel Adlon.

Peter richtet sich auf.

Peter: Gnädige Frau, dürfte ich Ihnen die Speisekarte reichen?

Heidi: Ja, gerne. Vielen Dank. Gäbe es etwas, was Sie empfehlen könnten?

¹ = am Abend

² *so eine große Stadt

³ ゼロ年代のベルリンのスローガン。ちなみに、デュッセルドルフのスローガンは：
"Düsseldorf ist reich und elegant."

⁴ Hotel Adlon Kempinski ブランデンブルク門のそばにある高級ホテル。

Peter: Schnitzel!

Heidi: Hei, wir sind im Hotel Adlon.

Peter: Ah, natürlich. Als Vorspeise könnte ich Ihnen Tomatensalat empfehlen. Als Hauptgericht hätten wir Schweinefilet anzubieten. Wie wäre es mit italienischem Eis zum Nachtisch?

Heidi: Hm... Ich würde mal fromage à la Schwarzwald⁵ nehmen ...

Ein Kellner vom Lokal kommt.

Kellner: Guten Abend. Was möchten Sie essen?⁶

Peter: Schnitzel!

Heidi: Ich nehme die Bratkartoffeln und einen kleinen Bauernsalat.

Kellner: Und zu trinken?⁷

Heidi und Peter: Weißbier!

Der Kellner bringt Bier. Sie fangen an zu trinken.

⁵ あえて訳せば「シュヴァルツヴァルト風チーズ」。もちろん、実在しない。Heidi もホテル・アドロンで食事をしたことがないので、どんな料理があるのか判らないのである。

⁶ = Was darf es sein?

⁷ = Zum Trinken?

誰だってなんでも夢見ることはできる（その1）

カップルが、晩にベルリンの飲食店にすわっている。二人はバイエルンから来た旅行者で、ここ数日ベルリンにいるのだった。

ハイジ： ベルリンは大都市で、たった二三日ではとても十分観たとはいえないわね。国会議事堂、ブランデンブルク門、ウンター・デン・リンデン。博物館島に、大聖堂・・・ありとあらゆるものが立派で、壮大だわ。これこそ首都よね。

ペーター： プレンツラウアーベルクやクロイツベルクもおもしろかった。カレーソーセージの味は格別だね。ベルリンは貧しいけれどもセクシーだ。

ハイジ： 貧しいですって？ 今日は、アドロン・ホテルを内側から覗いたでしょう。あのホテル、立派で、豪華じゃあなかった？

ペーター： まあね。

ハイジ： 今、あのホテルにいたとすると、私たちいったいどんなものを食べているのかしら？

ペーター： シュニッツェルかな。

ハイジ： いやだ。私たちがアドロン・ホテルにいたら、って言っているのよ。

ペーターは背筋を伸ばす。

ペーター： 奥様。メニューをお持ちしましょうか。

ハイジ： お願いしますわ。ありがとう。お勧めのものはなにかあるかしら？

ペーター： シュニッツェルですね。

ハイジ： あのさ。私たちは、アドロン・ホテルにいるのよ。

ペーター： ああ。もちろんだとも。前菜には、トマトサラダがお勧めです。メインメニューとしては、豚肉の揚げ物などをお出ししております。デザートには、イタリアン・アイスなどいかがでしょうか？

ハイジ： そうね・・・。では、シュヴァルトツヴァルト風チーズをいただくわ・・・

飲食店の給仕がやってくる。

給仕： 今晚は、何にいたしましょう？

ペーター： シュニッツェル。

ハイジ： ジャガイモ炒めと農民風サラダの小盛りをいただくわ。

給仕： お飲み物は？

ハイジ、ペーター： 白ビール！

給仕がビールを持ってくる。かれらは飲み始める。